平成２５年度

年 間 事 業 報 告

社会福祉法人　清和会

三浦しらとり園

平成２５年度三浦しらとり園の状況（目次）

Ⅰ　総括 ･･･ 1

１　利用者の状況 ･･･ 10
⑴月別入退所状況
⑵入退所の状況
⑶年度別経路別入退所の状況
⑷市町村別入所者の状況
⑸児童相談所（圏域）別入所者の状況

２　入所者の年齢別・性別等の契約状況 ･･･ 13
⑴年齢別・性別の状況
⑵在所期間の状況
⑶障害程度区分の状況

Ⅱ　利用者の支援

１　地域サービス事業の状況 ･･･ 14
⑴短期入所
⑵通所(自立訓練(生活訓練)を含む）の状況
⑶日中一時支援事業の状況

Ⅲ　支援の実施状況

１　施設入所支援の状況 ･･･ 16
⑴児童課の状況
⑵生活第１課の状況
⑶生活第２課の状況

２　生活介護・自立訓練（生活訓練）（日中一時支援事業利用者を含む）の状況 ･･･ 18
⑴活動内容
⑵支援体制
⑶支援計画
⑷作業収益金
⑸グループ編成

３　強度行動障害対策生活支援事業 ･･･ 20

４　心理支援（個別面接、行動観察）の状況 ･･･ 22

５　理学療法の状況 ･･･ 22

６　ボランティアの受け入れ ･･･ 23

７　オンブズパーソン施設訪問 ･･･ 24

８　三浦しらとり園家族会 ･･･ 24

9　実習生/研修生受入れ状況(４月～９月) ･･･ 25
⑴受け入れ件数
⑵受け入れ内訳

10　研修実績 ･･･ 26
⑴外部研修実績
⑵内部研修実績

11　防災・避難訓練 ･･･ 29

12　洗濯業務の状況 ･･･ 29

13　給食業務の状況 ･･･ 30
⑴食事の形態別人数
⑵食事の種類別人数

14　医療の状況 ･･･ 31
⑴利用者検診状況
⑵入退院の状況
⑶診療所利用状況

Ⅰ　総括

1　三浦しらとり園の概略

当園は、昭和３８年１月に精神薄弱児施設「神奈川県立長沢学園」（定員１００名）として開設し、昭和５８年４月に県立社会福祉施設再整備拡充計画「やまゆり計画」の第１号施設として、児童施設４０名に成人施設（更生）１２０名、通所部門１５名を加え、三浦半島の在宅福祉サービスの拠点施設として「神奈川県立三浦しらとり園」として開設された。平成２年には在宅精神薄弱児・者施設利用普及事業を開始し、短期入所事業や緊急一時保護を行うなど横須賀・三浦地区の中で大きな役割を果たしてきた。平成１５年４月には今までの措置制度に替わる利用者との契約による「支援費制度」が導入され、１１月には「県立社会福祉施設将来展望会議報告書」の中で、当園は民間委託されるべき施設として位置づけられた。

平成１８年４月から障害者自立支援法が施行され、まず短期入所事業が新法による事業実施となり、平成２０年４月から障害者自立支援法に基づく指定障害者支援施設として完全移行した。サービス内容は施設入所支援９４名、生活介護１０１名、自立訓練（生活訓練）６名、短期入所定員１８名としている。

平成２１年６月には、指定管理者制度の導入が園及び家族会に発表され具体的な動きがスタートし、社会福祉法人清和会を含む４法人が応募した。２２年４月には５名の委員からなる「指定管理者制度外部評価委員会」が２回開催され、５月に松沢知事をトップとした「県庁改革会議」が開催され、指定管理事業者候補法人として社会福祉法人清和会が選定され、６月に開催された県議会定例会で正式に指定管理者として議決された。８月には指定書を交付され、平成２３年３月３０日には引継式が挙行され、４月から新施設長に淺井一志を迎え、社会福祉法人清和会による運営が開始された。

この時点における定員は施設入所支援８８名、生活介護９５名、自立訓練（生活訓練）６名、短期入所２４名、知的障害児施設支援４０名（うち４名短期入所）である。

平成２４年４月には児童福祉法等の改正等により知的障害児施設は、他の障害児施設を含めて「福祉型障害児入所施設」に一本化された。また、１８歳以上の加齢児については「経過的施設入所支援サービス費」、「経過的生活介護サービス費」による報酬単価が示され、今後6年以内に成人施設等への移行を図ることが要請されている。

平成２５年３月３１日で、県職員及びかながわ共同会職員の派遣が完了し、２５年４月より清和会単独での運営となった。

2　運営について

(1) 組織･職員等の体制について

平成２５年３月には、当園の運営も順調なところから県職員２５名の派遣については完了することと県も判断し、かながわ共同会からの４名の派遣職員についても同様に2年での派遣終了となった。今年度については、新採用職員３５名（幹部２名及びかながわ共同会退職者２名

を含む）、清和会の異動職員４名、内部昇格６名、新幹部・寮長・班長８名、園内異動１０名に対する辞令交付が行われた。新採用職員に対しては、寮に入っての体験研修を昨年度より実施し、３月５日〜６日で座学研修、さらに７月・８月に救急法やハイムリック法、摂食嚥下、医療実務研修等を行い、特に新人職員に必要な研修を手厚く実施している。今年度についても、「安全・安心」を柱に運営を行い、新人職員が多いため寮長を中心に中堅職員がカバーをしながら丁寧な運営を行っている。

平成２６年度に向けては、２５年８月より一部の内定職員の体験研修を実施し、２６年２月より全新採用職員を対象に体験研修を実施した。また、３月１７日・１８日で清和会の新採用職員を対象に座学研修を実施した。

(2)　相談支援事業所の設置について

相談支援事業所については、神奈川県としても実施数が非常に少なく、県・横須賀市からも事業所の起ち上げに対する期待もあり、当園としても、来年度に起ち上げる方向で調整と準備を行ってきた。

今年度に相談支援従事者研修に職員１名を受講させることができ、県と調整し指定管理外の自主事業としての届出に対する承認を受け、横須賀市に計画相談支援と障害児相談支援の指定申請を行った。２６年４月から「三浦しらとり相談支援事業所」という名称で開所する予定である。

(3) 利用者の入退所や短期入所等の状況について

①　利用者の入所について

入所については児童課（児童）で３名、生活課（成人）に５名の計８名の入所があった。

児童は児童養護施設からの措置変更児童が２名、在宅からの措置が１名である。成人施設入所については、児童課の加齢児としての移行が３名、他県の障害者支援施設でのへの不適応により強度行動障害支援事業による受け入れを１名行った。また在宅困難な利用者の受け入れを１名行っている。

②　利用者の退所について

退所については、児童課（児童）で８名、生活課（成人）で５名の計１３名が退所している。

児童については、相模原市に児童施設が設置されたことに伴う措置変更が１名。児童課の加齢児解消を図るための成人施設への移行が３名。加齢児の在宅復帰が１名。高等部を卒業し、２名がグループホームから就労、１名が在宅復帰して就労している。成人については、２名については横須賀老人ホーム及び鎌倉清和由比の特別養護老人ホームへの入所を行い、引き続き高齢者施設との連携を図ることができた。また、１名の方が在宅に戻られ、２名の利用者が病院で亡くなられている。

③　寮間移動の実施について

５・６寮の利用者の高齢者施設への移行を契機として、５名の利用者についてよりふさわしい寮への移行を図った。

④　在宅支援（短期入所・日中一時）の状況について

在宅支援である短期入所（１泊以上の利用）については、今年度の実績が２，５５３件と昨年度（平成２４年度）実績２，４０７件に対して１４６件の増となっており、一昨年度（平成２３年度）の２，２４５件、平成２２年度の１，６７６件と比較して順調に利用を増やすことができている。

今年度も横須賀市を中心に積極的な対応を図ることができており、横須賀・三浦圏域の中での在宅支援の拠点的な役割を果たせている。利用理由としては介護者（家族）の高齢化に伴うレスパイトや介護者の入院等によるものが多い。

日中一時（泊を伴わない利用）については、横須賀・三浦圏域での実施事業所の増加により減少傾向にあるが、今年度は１，２６１件で、昨年度１，２９７件、２３年度１，３４９件から比較して微減傾向となっている。

⑷　利用者支援について

①　食事について

食事については、保健食生活委員会のなかの食生活グループ会議を月に１回開催し、寮と厨房（エリアマネージャーや現場マネージャーを含めて）との連携を 図り丁寧な意思疎通を図るようにしている。

昨年度から、利用者からの「誕生日リクエストメニュー」を開始し、利用者からの要望に応えるようにしたり、栄養士が直接、寮に赴いて利用者から話を聞き、今後の給食の改善に生かしていく取り組みを進めている。

食形態については、普通食・一口大・きざみ・超きざみ・ミキサー食・ソフト食の６種類で利用者の状態によって、より適切な食事を提供できるようにしているほか、低脂肪食や減塩食、糖尿病食、アレルギー食にも対応している。さらに昨年度の２月より、各寮利用者の摂食・嚥下状態の確認のため、週に２回程度、昼食時に歯科医師・歯科衛生士・理学療法士・管理栄養士で回り、月に１回歯科室で検討会を開催することとしている。歯科医・歯科衛生士の視点（摂食・嚥下、口腔ケア）、理学療法士の視点（食事姿勢等）、管理栄養士の視点（栄養ケアマネジメントや食事形態）から意見を出し合い、個々の利用者が安全に食事ができるような支援につなげる試みを継続している。

今年度より、清和会の各施設の食事の質の向上を図るために、清和会の栄養士が集まり栄養担当者会議を開催することとした。

②　医療体制について

医療については、社会福祉法人湘南福祉協会に業務委託し、湘南病院との連携の中で「三浦しらとり園診療所」の運営を行っている。週８コマの歯科及び４コマの精神科をはじめ、内科、整形外科、耳鼻科、脳神経外科、婦人科の診療を行ない、当園の医療を担っている。利用者の健康管理については、昨年と同様に内科検診、歯科検診、尿検診、耳鼻科検診等利を実施し、２７名の入院者については、３名を除いては湘南病院ですべて受け入れている。

入院患者は１５名が５・６寮の高齢・病弱な利用者となっており、うち肺炎に罹患した者が６名となっている。嚥下の検査入院も２名行っており、まだ４０～５０代であるが、嚥下能力の低下している者がでてきている。

リハビリテーション体制については、８名の利用者についてリハビリテーション体制（加算）をとっているが、１０月から新たに５名の利用者を対象に加え実施している。

③　強度行動障害対策事業及び心理職の活動について

当園は、神奈川県の実施する事業として、一般の民間施設では入所を断られるような著しい行動障害などを示す知的障害児者に対する相談を受け、専門的なスキルに基づく直接支援や職員に対する助言を行っている。

園での事業対象者は現在３名、準事業対象者５名に対する支援を行っており、利用者支援に対する様々な相談を受けてのカンファレンスを実施し、地域からの相談も積極的に受けています。さらに、横須賀・三浦地域を対象として公開講座を開催したり、園内職員を対象として外部講師を招いてのケースカンファレンスなどの研修も行っている。

心理職としては、園内利用者の個別面接や個別支援、行動観察等を行っていますが、今年度よりソーシャル・スキル・トレーニング(SST)やセカンドステップを取り入れた心理支援を行い、対人関係の取り方の一つとして、他の人に対してきちんと断ることができるなど成果をあげています。

④　リスクマネジメントについて

リスクマネジメントについては、リスクマネジメント委員会を中心にヒヤリハット報告書の活用を継続し、併せて事故報告及び苦情受付等を行っている。

今年度は1，７７２件のヒヤリハット報告書が提出されており、ヒヤリハット報告書を提出する意識は十分身についている。事故報告については今年度６２件と昨年度（２４年度）７４件、一昨年度（２３年度）７４件から１６％減少している。

今年度については、児童課利用者の所在不明が５件有り、知的に高い利用者が他児とのトラブルや自分の要求が満たされない不満等から意図的に園を出た事件があった。昨年度は所在不明は１件だけであり、利用者構成の変化が伺える。また、残念なことに利用者の死亡が２件（１名は診療所受診時に急変し病院に救急車搬送するも死亡。１名は入院中に肺塞栓により死亡）あった。

骨折が６件、外傷（骨折除く）が１６件、誤与薬が２６件、その他器物破損等があったが、昨年度に比して誤与薬は２７件と横ばい。骨折も５件で横ばいであったが、外傷事故が３０件から１６件に減っており、見守りの意識強化が成果をあげたと考えられる。

苦情については、ご家族から３件、近隣の方より１件の計４件あった。内容としては利用者支援については３件、職員の身なりについてが１件であった。そのうち短期入所利用のご家族からが２名であった。それぞれ、適切に対応の上解決している。

⑤　児童に対する健康教育（性教育）の実施

児童課が企画し、特に思春期の児童１１名を対象に、児童相談所の保健師に依頼を行い、県児相３箇所、横須賀市児相の４児相が協力し、３日にわたり健康教育（性教育）を実施した。

⑥　家族との連携等について

ご家族に対しては、利用者の個別支援計画について丁寧に説明し様々な要望等を伺い、必要があれば訂正していくなどのやりとりを重ねるなかで、支援計画に対する同意を得るよう努めている。また、互いによりよい関わりができるように帰宅や面会、来園などの際には併せて情報交換を行うよう心掛けている。

隔月で開催されている家族会には、毎回５０数名のご家族の参加があり、園としての報告や情報発信を行っており、行事等の機会を活用し連携を図っている。また、毎年、「家族アンケート」を実施し、園に対する意見や要望を伺い、園全体に周知を図るとともに改善すべき点は迅速に対応するなど取り組んでいる。

今年度の職員実践報告会においては、利用者支援に関する報告を３件行ったが、当事者のご家族も含め１５名のご家族が参加され、参加いただいたオンブズパーソンより、「開かれた施設」との評価をいただいた。

⑦　夏の猛暑に対する対応ついて

今年度は、かつてないような記録的な猛暑であり、熱中症にならないように水分補給や日中の活動等に十分な注意を払ってきた。冷房の運転時間を従来午後９時までとしていたところ、７月後半より午後１０時まで延長し、さらに８月初旬からは午後１１時までとして対応した。

⑧　冬の大雪への対応について

２６年2月８日（土）と２月１４日（金）は、例年にない大雪が降った。天気予報どおりであったので、職員の勤務体制については、事前に電車や車で来られない際のシフトを各寮で整え、翌日の早出のために園に宿泊する職員や、交通機関が止まり、家に戻れず宿泊する職員も出たが、利用者支援に対する影響はなかった。

⑨　インフルエンザ等感染症への対応について

今年度については、ノロウィルスの感染者は一人もいなかった。従来は１１月、１２月からインフルエンザ等に罹患する利用者がでるが、今年度は２月に児童課の男子中学生１名が初めてインフルエンザＢに感染した。居室安静が保てる利用者であり寮閉鎖はしなかった。ところが、３月後半に入って７寮の職員がインフルエンザＡに罹患したのを皮切りに、７寮利用者が次々と１３名発症し、４寮でも２名の利用者が発症した。３月２９日に７寮は寮閉鎖としたが、その後、利用者は順調に熱も下がり翌年度4月7日(月)に寮閉鎖解除とした。

⑩　防災対策について

毎月１回の避難訓練を行っているが、６月・１０月には、それぞれ２回実施し、計１４回の避難訓練を行い、火災避難訓練・地震想定訓練・夜間想定訓練等を実施している。

津波に関しては当園は標高１７メートルであり、最大級の津波（９～１０メートル）が来ても大丈夫であり、津波対応としては防災行政無線の情報を確認しながら１階の利用者が２階に上がる避難が適切であるという助言を横須賀市よりいただいている。

(4) 人権擁護に対する取り組み

① 成年後見人の状況について

今年度については、生活課の利用者については３名を除いて全員が成年後見人制度による選任が完了している。ほとんどが親族後見であるが、金銭管理は弁護士で生活監護は家族というような役割分担をする例も４名出てきており、社会福祉士や司法書士、行政書士、弁護士といった第三者後見が選任されている利用者は１３名で１６％となっている。課題としては、児童課で生活する成人利用者（加齢児）の後見人の選任を進めていくこと、後見人がご家族で高齢等により第三者後見等が必要な方が増えており、状況をみて手続きを依頼していくことが必要となっている。

② オンブズパーソン活動について

今年度については、公式には９回来園いただき、利用者との面接や利用者の意見交換を行う「話そう会」への参加、生活寮の視察、家族との交流等を行っていただき、オンブズマンとしての園に対する助言をいただいた。実際には、任意で様々な行事等に参加いただき積極的に関わっていただいた。

③ 児童の第三者評価について

児童の第三者評価を、社会福祉士会に依頼し昨年度実施したが、評価結果については６月に送付された。各分野で非常に高い評価を得ることができ、さらに利用者支援を高めていく意欲を感じることができた。

⑤ 人権研修の実施

１２月に主に新採用職員を対象に、虐待防止をテーマに人権委員による研修を実施（２１名参加）した。３月には、「利用者への不適切な対応を防ぐために～セラピューティックホールドの実際」というテーマで、外部講師を招き研修を行った。

⑥ 人権委員会の開催

人権委員会を開催し、人権アンケート部会において当園の支援部職員全員に対して１１月から１２月にかけて職員自己評価アンケートを実施した。また、長期利用者及び短期入所利用者のご家族に対するアンケートを実施し、職員の支援の振り返りを行った。また、身体拘束部会では、施錠場面・時間の減少に向けて居室施錠の対応についての調査を行った。

3 研修・実習・ボランティア等の状況について

(1) 研修（人材育成）について

園内での研修としては新採用職員を主な対象としたハイムリック法やＡＥＤ研修、吸引ノズル研修、感染症などの緊急時の対応研修を丁寧に実施した。

公開基礎講座として「自閉症の障害特性に関する基礎研修」や「セカンドステップ」などを行っている。

⑵　実習生について

実習生については、２０校より、実人数３２名、延日数３７４日の受入を行っている。昨年度より、社会福祉士研修については「社会福祉士及び介護福祉士法」の改正により社会福祉士実習指導者講習会の受講が義務づけられ、受講した職員が指導に当たっている。1名が社会福祉士研修であり、あとの３１名は保育士研修である。

⑶　ボランティアについて

ボランティアについては９月末までの間に、日中活動ボラ・環境整備ボラ・縫製ボラ・通学付添ボラ・利用者支援ボラ・余暇支援ボラ等延１，０９５名の方に活動いただいた。５月には当園で活動している１６ミリ試写室の皆さんが緑綬褒章を受章されている。昨年度には、８８園芸会が県社会福祉協議会会長表彰を受賞したが、今年度については、ふよう会・東中里紫重会の２団体が授賞している。

今年度も、ＳＲＦ（米海軍艦船修理廠）によるクリスマス会、ＮＴＴによるふれあいコンサート、横須賀学院による花の日コンサートなど心温まる行事を開催していただいた。

昨年度まで、通学ボランティアを北下浦ボランティアセンターに依頼していたが、今年度は小学生が１名となってしまったことから活動は休止とした。来年度については小学校への通学児が増える予定であり、再開の依頼を行っている。

４　社会福祉法人清和会の他施設との交流について

今年度については、４月の清和祭バザー（センター）、７月の鎌倉花火納涼祭バザー（鎌倉清和由比）、８月の清和納涼祭（センター）の行事に職員・利用者ともに参加し、行事を楽しんだ。また、今年度からオープンデーを「しらとり祭」という名称に変更し、法人全体行事という位置付けで９月に開催した。

１０月には清和運動会を植木小学校で行い、１月には新春の集いを鎌倉パークホテルで行っている。３月には家族会が鎌倉清和由比と地元の特別養護老人ホームを見学し、交流を図った。

夏休み期間には、当園の児童課利用者３名が「鎌倉わかみや」「鎌倉由比」「鎌倉清和由比（特別養護老人ホーム）」での実習を行い、「鎌倉清和園」で宿泊体験をするなど、児童の将来に向けた有益な取り組みを図ることができた。

５　５０周年記念行事について

当園が長沢学園設立より５０年を迎えたところから、利用者とご家族を対象に９月１４日（土）に横須賀ベイサイドポケットで「三浦しらとり園５０周年記念音楽祭～感謝の集い～」を開催した。アマポーラ、鎌倉女子大学沖縄舞踊愛好会、プロ歌手大庭照子さんによる音楽祭に約３００名が参加し楽しんだ。

また、９月２８日（土）には、従来オープンデーという名称で行ってきた行事を「しらとり祭」という名称に変え「創設５０周年記念しらとり祭」として開催した。すばらしい晴天に恵まれ多数の方が来園し賑やかで楽しい催しとなった。さらに、１１月４日（月・休）には横須賀セントラルホテルにおいて、三浦しらとり園に過去関わってきた職員に対する「感謝の集い」を行い、多くの方々の参加を得て盛大に開催することができた。

会では歴代の職員の旧交を温めるとともに、長沢学園、三浦しらとり園の地域に果たした役割を再確認する機会としても、とても意義深いものであった。

６　その他

(1)　感謝状の授与について

当園が東日本大震災で、福島からの被災障害者を受け入れたことに関して４月に厚生労働大臣表彰を授与された。

(2)　春の叙勲について

法人常務理事でもある当園の淺井施設長が、春の叙勲で瑞宝単光章を受章された。５月２日に伝達式があり、５月１０日には拝謁式に参加した。

(3)　車輌について

昨年度については９月から洗濯搬送及び利用者移送のために、ワンボックスカー（リース）を導入したが、洗濯の運搬業務が終了したことからリース終了とした。今年度については、シビックとカルディナを廃車とし、６月より、カローラフィルダーとラティオをレンタルで導入している。

(4)　コンピューターシステムについて

記録のシステムとして総合ソフト「ミスヘルパー」を導入しているが、今年度については、日誌等の情報共有等に、エクセルを使用してきたが、より安定的な「ファイルメーカー」を導入し，１０月から試行した。

従来の「表計算アプリ」上にあったものを「データベース専用アプリ」に替えることにより、数式の消滅・矛盾が解消され、入力、蓄積、閲覧、検索が容易になった。具体的には「園内予定表」「日誌」「夜間連絡票」「おしらせ」のデータベースについて園内ＬＡＮで共有している。

また、リスクマネジメント委員会と協働しながら「インシデント報告書」、「事故報告書」、「入院報告書」などの作成をしていく予定である。

(5)　職員に対する腰痛研修の実施について

安全衛生委員会において、当法人の理学療法士を講師に腰痛研修を開催した。

(6)　洗濯業務について

従来は、社会福祉法人清光会への業務委託としてきたが、諸般の事情により緊急的に６・７月は社会福祉法人神奈川厚生協会　貴峯荘ワークピアに依頼し、四事業所の見積合わせにより８月からは、正式に貴峯荘ワークピアに決定し、業務委託を行った。来年度については清光園に委託することになっている。

7　県立障害福祉施設あり方検討委員会についての動向について

２５年５月より、県立施設及び指定管理施設に対するあり方検討委員会が開催され、法人としても傍聴をするなど関心を持って推移を追ってきた。

２６年１月に報告書がだされたが、当園は①民間施設では対応困難な重度重複等の知的障害児・者を受け入れ　②診療所を併設し、医療的ケアが必要な利用者に対応し　③短期入所事業などにより地域生活支援に積極的に取り組み　④近隣の民間施設へのバックアップ機能を担っている、等の理由により、「県立指定管理施設として存続することが望ましい。」と記載されている。

ただし、「当園は横須賀市（中核市）に立地し、利用者の多くが横須賀市の利用者であり、障害福祉サービス事業所の指定権限が中核市に移行していること、また、横須賀市が児童相談所設置市であることを踏まえて、今後の園のあり方については市と話し合っていく必要がある」と整理されている。

今後は、当園の今後のあり方については、建物の老朽化なども視野に入れ慎重に検討していく必要がある。

1　利用者の状況

(1) 月別入退所状況

ア　児童課(40名定員)　（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日在籍	31	32	32	31	32	31	30	30	29	29	29	28
入所	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
退所	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	3
月末在籍	32	32	32	32	31	31	30	29	29	29	28	26

イ　生活課(88名定員)　（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日在籍	83	81	81	83	82	82	82	83	83	82	82	82
入所	0	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	1
退所	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0
月末在籍	81	81	83	82	82	82	83	83	82	82	82	83

(2) 入退所の状況（平成25年4月1日～平成26年3月31日の状況）

ア　児童課

（入所）　（単位：人）

児相 / 性別	県域						政令市・中核市・その他						計
	中央	鎌三	小田原	県北	厚木	小計	横浜	川崎	横須賀	相模原	県外	小計	
男	1			1	1	3						0	3
女						0						0	0
計	1	0	0	1	1	3	0	0	0	0	0	0	3

（退所）　（単位：人）

児相 / 性別	県域						政令市・中核市・その他						計
	中央	鎌三	小田原	県北	厚木	小計	横浜	川崎	横須賀	相模原	県外	小計	
男		2				2			2			2	4
女					1	1			2	1		3	4
計	0	2	0	0	1	3	0	0	4	1	0	5	8

（一時保護）　（単位：人／日）

児相 / 性別		県域						政令市・中核市・その他						計
		中央	鎌三	小田原	県北	厚木	小計	横浜	川崎	横須賀	相模原	県外	小計	
男	実人員						0						0	0
	延べ日数						0						0	0
女	実人員		1				1			2			2	3
	延べ日数		2				2			17			17	19
計	実人員	0	1	0	0	0	1	0	0	2	0	0	2	3
	延べ日数	0	2	0	0	0	2	0	0	17	0	0	17	19

イ　生活課

（入所）　（単位：人）

行政機関 / 性別	横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町				計
男	2				1				3
女	1	1							2
計	3	1	0	0	1				5

（退所）　（単位：人）

行政機関 / 性別	横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町				計
男	2		1						3
女	1	1							2
計	3	1	1	0	0				5

(3) 年度別経路別入退所の状況（平成25年4月1日～平成26年3月30日の状況）

ア　入所

（単位：人）

経路	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
	児童	成人	児童	成人	児童	成人	児童	成人	児童	成人	児童	成人
在宅（学齢）	1		4		4		2		4		1	
在宅（無職）				1								
在宅（作業所）												
在宅（就労）												
在宅（ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ）												
通所施設												
入所施設					1		1	3	1		2	5
ケアホーム												
グループホーム												
病院												
その他												
計	1	0	4	1	5	0	3	3	5	0	3	5

イ　退所

（単位：人）

経路	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		25年度	
	児童	成人	児童	成人	児童	成人	児童	成人	児童	成人	児童	成人
在宅（学齢）					2		1		1			
在宅（無職）											1	
在宅（作業所）			1									
在宅（就労）											1	
在宅（ﾃﾞｲｻｰﾋﾞｽ）												
通所施設												
入所施設	1		1	1	3		5	1			4	
ケアホーム			3		1	1						
グループホーム							1				2	
老人ホーム		2		1		1				1		2
病院												1
その他		1		5				1		1		2
計	1	3	5	7	6	2	7	2	1	2	8	5

(4) 市町村別入所者の状況（平成25年4月1日～平成26年3月31日の状況）

ア　市町村別入所状況（児童）

（単位：人）

		市町村											政令市・中核市・その他						合計
		鎌倉市	三浦市	葉山町	藤沢市	大和市	茅ヶ崎市	秦野市	中郡二宮町	湯河原町	南足柄市	小計	横浜市	川崎市	横須賀市	相模原市	県外	小計	
内訳	男	1	1	0	0	1	1	1	0	1	0	6	1	0	6	0	2	9	15
	女	1	0	0	0	3	2	0	1	0	1	8	0	0	2	0	1	3	11
計		2	1	0	0	4	3	1	1	1	1	14	1	0	8	0	3	12	26

イ　市町村別入所状況（成人）

（単位：人）

		市町村									政令市・中核市・その他						合計
		鎌倉市	三浦市	逗子市	葉山町	藤沢市	茅ヶ崎市	秦野市	湯河原町	小計	横浜市	川崎市	横須賀市	相模原市	県外	小計	
内訳	男	1	4	2	2	0	0	0	1	10	3	3	30	0	0	36	46
	女	3	6	2	1	1	0	0	0	13	3	3	18	0	0	24	37
計		4	10	4	3	1	0	0	1	23	6	6	48	0	0	60	83

(5) 児童相談所（圏域）別入所者の状況（平成25年4月1日～平成26年3月31日の状況）

ア　児童相談所別状況（児童）

（単位：人）

		児童相談所別						政令市・中核市・その他						合計
		中央	鎌三	小田原	県北	厚木	小計	横浜市	川崎市	横須賀市	相模原市	県外	小計	
内訳	男	1	1	1	2	2	7	0	0	8	0	0	8	15
	女	3	1	1	3	1	9	0	0	2	0	0	2	11
計		4	2	2	5	3	16	0	0	10	0	0	10	26

イ　圏域別状況（成人）

（単位：人）

		障害保健福祉圏域別						政令市・中核市・その他						合計
		横須賀三浦	湘南東	湘南西	県央	県西	小計	横浜市	川崎市	横須賀市	相模原市	県外	小計	
内訳	男	9	0	0	0	1	10	3	3	30	0	0	36	46
	女	12	1	0	0	0	13	3	3	18	0	0	24	37
計		21	1	0	0	1	23	6	6	48	0	0	60	83

２　入所者の年齢別・性別等の契約状況（平成26年3月31日現在）

(1) 年齢別・性別の状況

ア　児童課　　　　（単位：人）

性別＼年齢	～6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19～	計
男	1	1	0	0	0	0	0	1	3	1	2	1	1	4	15
女	0	0	0	0	0	0	0	3	0	1	1	5	0	1	11
計	1	1	0	0	0	0	0	4	3	2	3	6	1	5	26

	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男	17歳11月	37歳 1月	6歳11月
女	16歳 6月	21歳 6月	13歳 2月
全体	17歳 4月		

イ　生活課　　　　（単位：人）

性別＼年齢	～１９	２０～２９	３０～３９	４０～４９	５０～５９	６０～６９	７０～	計
男	0	2	6	20	12	5	1	46
女	0	3	6	10	12	5	1	37
計	0	5	12	30	24	10	2	83

	平均年齢	最高年齢	最低年齢
男	47歳 2月	72歳 6月	25歳 1月
女	48歳 3月	71歳10月	23歳 6月
全体	47歳 7月		

(2) 在所期間の状況

ア　児童課　　　　（単位：人）

性別＼期間	～０	１～２	３～４	５～９	１０～１４	１５～	計	平均在所期間
男	3	2	0	2	5	3	15	9年 1月
女	0	5	3	2	1	0	11	5年 1月
計	3	7	3	4	6	3	26	7年 4月

イ　生活課　　　　（単位：人）

性別＼期間	～０	１～２	３～４	５～９	１０～１４	１５～	計	平均在所期間
男	2	3	0	1	5	35	46	19年10月
女	2	0	0	0	9	26	37	20年 0月
計	4	3	0	1	14	61	83	19年11月

(3) 障害程度区分の状況

ア　児童課　　　　（単位：人）

性別＼障害区分	6	5	4	3	2	1	計	平均障害程度区分
男	2	0	2	0	0	0	4	5.00
女	0	1	0	0	0	0	1	5.00
計	2	1	2	0	0	0	5	5.00

※　措置児童で認定区分審査を受けていない児童を除く

イ　生活課　　　　（単位：人）

性別＼障害区分	6	5	4	3	2	1	計	平均障害程度区分
男	30	14	2	0	0	0	46	5.61
女	31	5	1	0	0	0	37	5.81
計	61	19	3	0	0	0	83	5.70

Ⅱ　利用者の支援

1　地域サービス事業の状況

(1)短期入所

ア　契約者数（平成26年3月31日付）

(ア)児童　（単位：人）

性別	横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町	藤沢市	その他	計
男	13	0	4	3	0	1	1	22
女	7	0	0	0	0	0	0	7
計	20	0	4	3	0	1	1	29

※その他は

平塚市

(イ)成人　（単位：人）

性別	横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町	藤沢市	その他	計
男	39	2	0	2	2	1	0	46
女	24	2	0	4	0	0	0	30
計	63	4	0	6	2	1	0	76

イ　短期入所の状況

(ア)児童　（単位：人）

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
男	実人員	4	6	5	5	5	3	4	3	8	5	4	7	59
	延件数	5	6	6	7	11	4	6	4	9	6	7	7	78
	延日数	12	14	15	17	29	10	14	11	31	14	20	18	205
女	実人員	2	0	0	1	2	1	0	1	1	1	1	4	14
	延件数	2	0	0	1	3	1	0	1	1	1	1	4	15
	延日数	5	0	0	2	6	2	0	2	4	2	2	8	33
計	実人員	6	6	5	6	7	4	4	4	9	6	5	11	73
	延件数	7	6	6	8	14	5	6	5	10	7	8	11	93
	延日数	17	14	15	19	35	12	14	13	35	16	22	26	238

＊生活課利用を含む

(イ)成人　（単位：人）

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
男	実人員	20	22	21	20	20	19	20	20	23	22	20	23	250
	延件数	29	34	31	31	32	32	36	34	37	35	28	36	395
	延日数	100	136	116	116	110	110	117	112	129	115	95	117	1373
女	実人員	12	11	11	17	17	13	13	19	16	15	17	20	181
	延件数	23	18	21	25	25	24	21	29	30	25	24	34	299
	延日数	95	82	49	71	74	63	59	84	83	75	89	118	942
計	実人員	32	33	32	37	37	32	33	39	39	37	37	43	431
	延件数	52	52	52	56	57	56	57	63	67	60	52	70	694
	延日数	195	218	165	187	184	173	176	196	212	190	184	235	2315

(2) 通所（自立訓練（生活訓練）を含む）の状況

13名の利用者が、月曜日から金曜日までの毎日家族の送迎で通所しています。

ア　契約者数の状況（平成26年3月31日付）

（単位：人）

	横須賀市	鎌倉市	逗子市	三浦市	葉山町	藤沢市	その他	計
男	7(2)	0	0	0	1	0	0	8(2)
女	2(1)	0	0	0	0	0	0	2(1)
計	9(3)	0	0	0	1	0	0	10(3)

( )は、自立訓練(生活訓練)で外数

イ　利用実績

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	実人員	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	8 (2)	96 (24)
	延日数	154 (40)	158 (40)	148 (40)	164 (42)	156 (38)	142 (38)	155 (42)	147 (40)	140 (38)	139 (37)	125 (37)	152 (40)	1780 (472)
女	実人員	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	2 (1)	24 (12)
	延日数	42 (21)	42 (20)	37 (21)	39 (21)	39 (23)	38 (18)	37 (21)	40 (20)	37 (19)	37 (19)	36 (19)	40 (20)	457 (241)
計	実人員	10 (3)	10 (3)	10 (3)	10 (3)	10 (3)	10 (3)	10 (3)	10 (3)	10 (3)	10 (3)	10 (3)	10 (3)	120 (36)
	延日数	169 (661)	197 (60)	188 (60)	201 (64)	190 (60)	180 (56)	192 (63)	187 (60)	177 (57)	176 (56)	161 (56)	192 (60)	2237 (713)

( )は、自立訓練(生活訓練)で外数

(3) 日中一時支援事業の状況

ア　児童　（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	実人員	10	8	8	14	13	8	8	7	10	9	8	10	113
	件数	25	22	23	34	40	25	18	19	18	22	17	18	281
女	実人員	7	8	9	10	8	9	9	8	8	8	7	9	100
	件数	18	21	25	29	32	24	25	21	18	19	16	28	276
計	実人員	17	16	17	24	21	17	17	15	18	17	15	19	213
	件数	43	43	48	63	72	49	43	40	36	41	33	46	557

＊生活課利用を含む

イ　成人　（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	実人員	6	7	8	8	7	7	11	9	8	5	7	6	89
	件数	18	20	24	23	22	23	27	25	21	22	14	22	261
女	実人員	8	10	8	10	10	10	8	9	7	8	7	7	102
	件数	37	50	39	43	49	36	40	29	30	29	30	31	443
計	実人員	14	17	16	18	17	17	19	18	15	13	14	13	191
	件数	55	70	63	66	71	59	67	54	51	51	44	53	704

Ⅲ　支援の実施状況

１　施設入所支援の状況

⑴　児童課の状況

ア　１寮（児童男性寮）

児童課１寮は、２０名定員で運営されています。現在、小学１年生から高校３年生まで11名の児童が、近隣小学校の特別支援学級、近隣中学校の特別支援学級、養護学校に通学しています。また１８歳以上の加齢児４名の利用者も共に生活しています。

高校３年生の２名の児童について、１名は家庭引き取りのうえ在宅生活となり、民間企業への就労が決まりました。他１名の方については、成人施設へ移行するための準備を行っているところです。他の過齢児については、１１月に１名、３月に１名それぞれ退所し、同施設内の成人寮へ入所しました。

寮内環境改善・整備については、居室の間仕切りとドアの設置（すでに２人部屋に仕切られている居室かげろうを更に仕切り、ドアを設置し個室化）、４人部屋（すいせい・しののめ）を仕切るカーテン設置、居室（あけぼの・かげろう・すいせい・しののめ）の窓カーテン設置、食堂内パーテーションの設置、学習机の導入などを行いました。

イ　２寮（児童女性寮）

児童課２寮は、２０名定員で運営されています。現在中学１年生から高校３年生まで１２名の児童が近隣の養護学校や中学校の支援級に通学しています。また１８歳以上の過齢児１名の利用者も共に生活しています。

９月までは過齢児が２名在籍していましたが、うち１名は当園の成人施設へ移行・入所しました。利用者の障害程度や特性も様々な中、児童相談所、学校、障害福祉課等の関係機関とも連携を取り、必要に応じてカンファレンスを行いながら支援を進めています。今年度は高校３年生の２名は老人介護施設に就労し、地域のGHで生活することとなり、3月末しらとり園を退所しました。

現在の児童課は軽度の障害児が多く、地域移行を早い段階から児童相談所や障害福祉課等の関係機関と密接に連携を取っていく必要があります。集団生活の中で丁寧に個別支援に取組み、それぞれの児童の特性に合った課題を提供するとともに、また個別化した刺激の少ない環境を整えることで、周りの人からの刺激を緩和し、落ち着いた生活が送れるようにしています。

今年度は寮内の環境整備でひまわり部屋の2人部屋を個室化、やまゆり部屋の壁紙交換、寮内カーテンの全てを交換、トイレ内の一部のカーテンをアコーディオンカーテンに改修しました。

⑵生活第１課の状況

ア　５寮（成人男性寮）

現在５寮は、１４名の利用者が生活されています。加齢やその他の疾患等で医療行為を必要とされる方達が多く生活されているため、園内の診療所との連携とともに日頃の食事、排泄、保清等の身体状況の変化に留意した支援を行なっています。

平成２５年７月に７寮から移寮してこられた方の夜間居室施錠対応（身体拘束）においては、環境が異なる５寮での生活の状況を十分に検証し、９月の寮会議を経て身体拘束を解除した生活に取り組んでおります。県立施設時代からの利用者の特性に応じた細やかな支援を踏襲すべく新規採用職員及び転入職員に対して園内外の研修と共に、寮内での0JT制度等も活用しながら人材育成に努めています。

イ　６寮（成人女性寮）

６寮は、加齢に伴い生活全般にわたり介助の必要な方が生活されています。４月に特別養護老人ホームに１名移行し、７月、８月にそれぞれ１名づつ８寮から移寮してこられ、現在１３名の利用者が生活しています。車椅子利用者７名、歩行不安定者が多数いる中、診療所、理学療法士との連携をとり、利用者の機能維持に努めています。

利用者の日々の体調変化を見逃さないよう一日３回の検温を実施し、感染症予防のため床、手すりなどの消毒をこまめにするなど疾病予防に配慮しています。また、当寮の棟及び居室の施錠は解放とし、利用者の状況に応じて風通しの良い環境を提供した支援を行っております。

夜間のベッド柵（４点の身体拘束）については、寮会議で話し合い、利用者の安全を第一に検討を行い、それぞれ利用者の状況に応じて身体拘束の解除に取り組んでいます。

□

(3)　生活第２課の状況

ア　３寮(成人男性寮)

３寮は、　１１月に児童課１寮から加齢児１名を入れ、現在１６名の利用者が生活されています。園内を単独で移動できる方がいる一方、常に転倒のリスクを抱えている方、また、嚥下機能が低下している方や異食傾向の方など、様々な利用者が在籍されています。日々の生活のなかでは余暇の充実、特に外出には力を入れています。安心・安全な支援を念頭に様々な体験を通して、日々「はりのある」生活が送れることを目指しています。

短期入所、日中一時については、様々な障害特性の利用者の方を、地域支援課と連携を図りながら受け入れています。

イ　７寮(成人男性寮)

７寮は、11月15日（金）15時9分に、何物にも代えがたい、尊い命を失うという、とても悲しい出来事がありました。今年３月１日付で児童課からの加齢児１名を受入れました。現在は、強度行動障害対策事業の対象者２名を含む１６名の利用者の方が生活されています。

利用者の方の障害状況としては、重度の自閉症及び行動障害を呈する方が中心となっており、障害程度区分の内訳としては、区分５の方が１名で、他は全て区分６の方となっています。日常生活面においては、引き続きシンプルな日課や整理された環境を提供するとともに、グループ制を導入し多角的な視点での支援、支援のバラツキの軽減に向けて取り組んでいます。３月、園内の実践報告会で寮のグループ支援の内容について発表し、園内外に発信しています。

また、今年度は、開かれた寮を目標に数多くのご家族の方に寮内に入っていただくと共に、生活の質の向上を目的に入浴支援の充実、カーテンの設置や各所のペンキ塗り替え、壁の補強工事など寮内の環境整備にも努めました。

ウ　４寮(成人女性寮)

４寮は、強い拘りや他害傾向等の行動障害を持つ方が生活されています。日課や個別対応等の環境調整をし、落ち着いて生活できるように支援しています。１０月に１名入所され、現在１２名の方が生活されています。

特性の強さから環境を共有できずにいた入所者も、４寮での生活の中で少しずつ環境の共有ができ、寮生活を送っています。身体拘束の許可を受けて居室の施錠対応・タイムアウトの対象となっている方が５名いますが、拘束時間の短縮に取り組み、短期利用者も含め２名の方が拘束時間が短縮できました。また、食事面については誤嚥等に配慮し、専門職員と連携を取り、個別の見守り支援を行い、安心して食事が摂れるように支援しています。余暇においては一人ひとりにあった余暇を楽しめるように配慮しています。利用者に対する観察をしっかりと行い、利用者、後見人と寄り添い連携して、利用者ひとりひとりが落着いて生活を提供できるようにしています。

エ　８寮(成人女性寮)

８寮は、９月に１名他寮から移寮され現在は１２名の利用者さんの方が生活されています。寮では様々な障害特性を持った利用者の方が生活しており、多様な支援が必要とされています。

最近は主に食事支援の一環として誤嚥等への配慮が重要になってきています。トロミを使用したり、刻みにしたり食事内容によって工夫しています。また、毎日の生活は単調にならないよう、できる限り外出やドライブ、昼食時に出前を取る等工夫しています。

短期利用者も新しい方が増え、そのたびに新たな発見がありますが、寮職員も利用者さんを知ることで成長できています。半年ぶりの利用の方を今回からは身体拘束の解除で生活していただいています。寮職員による統一した支援に力をいれ、安心安全な支援を第一に取り組んでいます。

２　生活介護・自立訓練（生活訓練）（日中一時支援事業利用者を含む）の状況

三浦しらとり園の日中活動では、利用者が安心して楽しく充実した活動できることを目的とし、主に月曜日から金曜日の日中に、創作的活動・機能訓練・社会生活訓練等、利用者に必要な支援を行いました。
また、当園では、スムーズな日中活動を運営できるよう日中活動連絡調整会議を設け、日中活動において安心できる支援をめざし、日中活動で起きたインシデント（ひやり・はっと）について、日中活動連絡調整会議で報告、検証し、日中活動担当職員と寮職員が連携し、より安全・安心な日中活動を提供するよう取り組みました。

(1) 活動内容

日中活動は各利用者の特性に応じて９つのグループを編成し、午前と午後に分けて実施しました。
日中活動の内容は、自立訓練・手工芸・スキルトレーニング・機能訓練・歩行・余暇等を行いしました。利用者の機能訓練に関しては、理学療法士の指導、助言のもと連携して取り組みました。また、ボランティアの皆さんの協力により、陶芸・革工芸・フラワーアレンジメント・ダンス・フライングディスク活動等を定期的に行いました。

(2) 支援体制

日中活動の支援は、地域支援課活動支援班職員及び地域サービス班職員と各寮の職員の体制で行ないました。また、支援にあたってはボランティアの協力をいただき、様々な活動に取組みました。

(3) 支援計画

日中活動の支援方針・活動内容等の支援計画は、生活介護及び自立訓練アセスメントに基づいて寮担当者と協議行い、利用者個々の支援計画を作成しました。支援計画の実施状況の把握は、日中活動記録とともに、６か月に１回以上のモニタリング及び見直しを行いました。

(4) 作業収益金

日中活動において創作的活動・作業訓練等により作成した作品は、バザー等で販売しています。作品販売等によって得た作業収益金は、参加利用者の活動状況（活動日数や生産能力）に応じて「作業報奨金」として年2回、利用者に還元しました。

(5) グループ編成

（単位：人）

グループ名	職員	利用者			グループの特徴	活動内容
		男	女	計		
スキル	3	14	7	21	環境や活動日課等に変更や周囲からの刺激に弱く、こだわりが強いなど見通しのもてる安定した日課の提供が必要な方	構造化された作業環境や作業システムでの、教材課題を中心とした手作業等
長距離	2	8	3	11	ある程度活動や環境の変化に適応出来、手作業が可能で、多くの運動量（５キロ程度）が必要である方	午前：晴天時～園外歩行(５キロ) 雨天時～室内作業 午後：教材課題中心の活動。 缶つぶし等
中距離	3	7	3	10	こだわりは見られるが活動や環境の変化に適応でき、手作業が可能で、3.5～4キロ程度の運動量が必要である方	午前：晴天時～園外歩行(3.5～4キロ) 雨天時～体育館歩行 午後：教材課題を中心とした手作業
短距離	4	9	6	15	健康や機能維持のため運動が必要で、集団や課題意識がある程度あり、歩行能力もある程度ある方	午前：晴天時～園外歩行(3キロ) 雨天時～室内作業・園内歩行 午後：園内歩行・ストレッチ・ 教材課題
園内活動１	5	6	6	12	健康や機能維持のため運動が必要であり、歩行能力はあるが介助も必要である方	園内（外）歩行・ストレッチ・マッサージ・リラクゼーション（スヌーズレン）・教材課題・音楽等
園内活動２	5	8	6	14	健康や機能維持のため運動が必要であり、補装具を使用しているか歩行能力はあるがほぼ一対一の介助が必要な方 集団の中での待機が難しく寮で待機し、個別に活動を行う必要がある方	園内歩行（車椅子での散策を含む）・ストレッチ・マッサージ・リラクゼーション（スヌーズレン）・教材課題等
園内活動３	2	5	5	10	半個室のブースが4つあり、周囲の刺激の刺激に弱い方も含めて室内の手作業を主に行い、気分転換や脚力低下防止のための歩行などを行う必要のある方	缶潰し・はがき作り、毛糸ほぐし・教材課題・ビーズ通し・歩行・ストレッチ等
園内活動４	2	2	8	10	静かな環境での作業を好み、手作業を主に行うとともに運動もある程度確保する必要のある方	染物・毛糸ほぐし・ししゅう・教材課題・ビーズ通し・はがき作り・缶潰し・歩行・ストレッチ等
自立訓練	3	4	3	7	将来ケアホーム等の地域移行を目指して、それに見合った生活・作業の訓練が必要な方	地域への移行を目指して、自活訓練棟（ヴィラしらとり）を利用して、地域での生活に必要な生活スキルの向上・社会体験等 陶芸・革工芸・リサイクル作業・製作活動

3 強度行動障害対策生活支援事業

強度行動障害の状態にある障害児者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう相談、生活支援、関係機関や家族及び地域との連携の推進を通して、障害児者の生活を支えることを目指しました。

(1) 事業の内容

本事業は、特に支援の難しい知的障害児者に強度行動障害対策生活支援事業の対象者として支援を行います。県事業対象以外に支援が必要な利用者は三浦しらとり園独自で要綱を定め、準事業ケースとして支援プログラム等の検討を行っています。その他、個別の課題については、相談支援を行っています。

次に、横須賀・三浦地域の関係施設等の職員を対象に障害特性に関する知識と支援技術の向上のために、園の研修計画に位置づけ公開講座や事例研究会を開催しています。また、他の施設及び学校、関係機関等からの行動障害に関する相談に対して専門的な支援・助言を行っています。

(2) 事業対象者に対する支援

ア 園内の支援対象者状況

(単位：人)

	対象者数				計
	児童		成人		
	男	女	男	女	
事業対象者	1	0	2	0	3
準事業対象者	1	1	2	1	5
相談ケース	1	0	2	5	8
計	3	1	6	6	16

イ 支援の状況

(単位：人)

		4月				5月				6月				7月				8月				9月				小計
		児童		成人		児童		成人		児童		成人		児童		成人		児童		成人		児童		成人		
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
個別支援	事業対象者											11				16				6						33
	準事業対象者		2	8				13				9				8		6	11	10			2	8	2	79
	相談ケース				11			29	12			20	13				13				14				13	125
	計	0	2	8	11	0	0	42	12	0	0	40	13	0	0	24	13	6	11	16	14	0	2	8	15	237
ケース カンファレンス	事業対象者					1				1		3				2						1		3		11
	準事業対象者		1	3	1				1			1		1					3	1	3		1	1	11	28
	相談ケース	2		4	4		1	7	9	1	2	4	6		1		8		1	1	5		1	3	3	63
	計	2	1	7	5	1	1	7	10	2	2	8	6	1	1	2	8	0	4	2	8	1	2	7	14	102
日中活動協力		12				4				12				14				11				18				71
他機関支援						1		1				2			1			1		1	3				1	11

(単位：人)

		10月				11月				12月				1月				2月				3月				小計	合計
		児童		成人		児童		成人		児童		成人		児童		成人		児童		成人		児童		成人			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
個別支援	事業対象者			1										2												3	36
	準事業対象者			10			3	13	3			7				12			2	9			4	10		73	152
	相談ケース			8	11				5							1					2				2	29	154
	計	0	0	19	11	0	3	13	8	0	0	7	0	2	0	13	0	0	2	9	2	0	4	10	2	105	342
ケース カンファレンス	事業対象者	1		1		1		3		2		1		2		2		3				1				17	28
	準事業対象者		3		3		1	4	2		2	1	3		1	1	1			3	1			3	2	31	59
	相談ケース			4	1			1	4	2		1	2				1	1		4	3				4	28	91
	計	1	3	5	4	1	1	8	6	4	2	3	5	2	1	3	2	4	0	7	4	1	0	3	6	76	178
日中活動協力		19				16				14				19				19				16				103	174
他機関支援			1	2	1			4				2						3		2		2				17	28

(3) 関係機関からの相談及び助言

地域の養護学校より依頼を受け、中等部児童に対するスーパーバイズを行っています。初回は行動観察、２回目にカンファレンスを行い、その結果を学校へフィードバックしています。来年度以降についてもスーパーバイズの相談を受けていますので、必要に応じて相談を続けていきます。

(4) 行動障害に関する研修及び研究

ア　研修内容

日程	テーマ等	講　　師	参加者
4/1	平成２５年度新規採用職員研修 『自閉症の特性理解と強度行動障害対策事業について』	当園強度行動障害対策事業担当	法人 新採職員
5/29	公開基礎講座（第１部） 『自閉症の障害特性と構造化について』	発達障害相談・支援センターKANAC センター長　小林倫氏	園内22名外部65名
5/31	公開基礎講座（第２部） 『問題行動の捉え方と支援方法』	同上	園内19名 外部45名
2/6	児童課学習会 『自閉症の障害特性について』	当園強度行動障害対策事業担当	児童課 職員 11名
3/3	公開講座 『利用者への不適切な対応を防ぐために ～セラピューティックホールドの実際～』	足利短期大学　こども学科 准教授　平本譲氏	園内24名 外部32名
3/17	平成２６年度新規採用職員研修 『自閉症の特性理解と強度行動障害対策事業について』	当園強度行動障害対策事業担当	法人 新採職員

イ　ケース検討会

日程	テーマ等	アドバイザー	参加者
10/21	園内支援困難ケースについて、応用行動分析に基づいた支援方法の検討	横浜国立大学　教育人間科学部 教授　渡部匡隆氏	園内7名
12/13	第１回助言に基づいた取り組みの中間報告と支援の見直しの検討	同上	園内8名
2/20	上記助言に基づいた支援の実践報告会	同上	園内・ 外部 17名

４ 心理支援（個別面接、行動観察）の状況

相談ニーズに応じて利用者の発達評価や成育歴・家族関係・生活状況の分析を通して利用者に対する関係者の理解を深め、個々の利用者の特性に則した心理的側面からの具体的支援をともに考えています。

個別面談では、普段はなかなか職員とじっくり関わることのできない利用者に対して、心理面接室という生活場面とは異なる空間で心理担当職員と一対一で関わる時間を提供し、自分だけの時間を過ごしてもらっています。

また、横須賀・三浦地域に向けた心理的視点からの公開講座を１０月開催して、園外施設、学校等関係機関、園内職員が参加しています。

（１）心理支援（個別面接、行動観察）の状況

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所者支援	30	33	32	35	29	34	37	33	45	45	50	45	418
相談ケース支援	0	1	6	1	3	6	4	2	1	2	5	4	35

※枠内数字は支援回数。入所者支援については延べ回数。

（２）継続支援（入所者）の内訳（平成26年3月31日付）

（単位：人）

	小学生	中学生	高校生	成人	その他	計
男	0	3	3	1	0	7
女	0	2	5	3	1	11
計	0	5	8	4	1	18

※その他は毎月短期入所利用されているケース

（３） セカンド・ステップ及びＳＳＴについて

ア セカンドステップの実施

セカンドステップは、平成26年2月より3月まで児童2名を対象に全11回実施しました。

基本としてセカンドステッププログラムに則って実施しますが、それぞれの児童が持つ能力に合わせ、プログラム回数や実施回数等を変更し行いました。特に「気持ちの理解」の部分等について所定プログラムよりも時間をかけて実施しました。

イ ＳＳＴの実施

ＳＳＴは、平成25年12月から平成26年3月まで児童4名を対象に全６回を実施しました。

実際の生活で必要となるスキルを具体的なテーマ、あいさつ・チクチク言葉・上手な誘い方や断りかた等を用いてロールプレイを行いしました。悪いモデル（不適切なコミュニケーション）と良いモデル（適切なコミュニケーション）について児童に感想等を話してもらった上で、実際に児童に良いモデルのロールプレイを演じてもらいました。児童がどのような内容のSSTを行ったかを職員間で共有し、実生活の場面への活用を目指しています。

（４） 公開講座

（単位：人）

開催年月日	テーマ等	講師	参加者
H25.10.30	心理公開講座 「セカンドステップの全体理解について」	NPO法人日本こどものための委員会　渡辺理事	60

５ 理学療法の状況

当園は、重度の知的障害のみならず、身体障害や加齢による機能低下などの複合的な障害を持っている利用者の方が多く生活をしています。そのため、施設生活において自立支援の他にいわゆる介護（介助）が必要となり、支援の業務よりも介護業務の方が増加していいます。今後も介護業務が増えることから、職員の介護技術の向上も必要となってくるとともに、いかに利用者のADLの低下、機能低下を緩やかにできるかが課題となっています。

（１）リハビリテーションの取り組み

三浦しらとり園においては、ADLの維持・向上に主眼を置き、主に移動動作を中心にリハビリテーション（以下、リハビリ）に取り組んでいます。そのため、アセスメント（評価）やリハビリ計画書においては、ADLの維持・向上を中心に記載します。ADLへのアプローチができない利用者の方には、まず身体機能面に対してリハビリを行っています。このリハビリは、利用者の関節・筋肉の状態（拘縮のレベル）、筋緊張の程度・質（麻痺のレベル）などミクロ的な視点からのアプローチとなります。最後に当園の職員に対して介護技術等の助言を行い、間接的な支援も行っています。

（２）リハビリテーションマネジメント加算の状況

リハビリテーションマネージメントに従って、三浦しらとり園のリハビリテーションに関するマニュアルを作成し、この手順に従って施行しています。今年度１０月から始まる３クール目で５名を増員し、下半期から対象者が１４名となります。また、寮内からも利用者の身体に関わる相談が多くあり、来年度もリハビリ加算の対象者を増員する予定です。

ア 上半期の実績

（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
男	件数	84	84	80	88	88	76	500
女	件数	96	103	99	105	95	93	591
合計		180	187	179	193	183	169	1091

イ 下半期・年度の実績

（単位：人）

		10 月	11 月	12 月	1月	2月	3月	小計	合計
男	件数	132	120	114	114	114	120	714	1214
女	件数	152	131	127	127	128	134	799	1390
合計		284	251	241	241	242	254	1513	2604

６ ボランティアの受け入れ（平成25年4月1日～平成26年3月31日の状況）

（単位：人）

	グループ等の名称	活動内容	延べ人数	備考
1	八八園芸会	剪定等、園内整備	127	昭和63年より活動
2	つくし会	縫製	113	昭和58年より活動
3	ふよう会	縫製	57	昭和52年より活動
4	さくら会・ふよう会・北下浦ボラ	ダンスクラブ	51	
5	かきくけこ	縫製	77	平成９年より活動
6	さくらの会（縫製）	縫製	22	昭和51年より活動
7	二・三の会	縫製	43	昭和56年より活動
8	東中里紫重会	縫製	26	昭和50年より活動
9	１６ｍｍ試写室	映画上映(余暇)	7	昭和63年より活動
10	北下浦ボラセン	余暇支援等	136	
11	佐藤　美津子	ドッグセラピー	1	
12	竹村　公良	陶芸	84	平成12年より活動
13	古知屋政江	フライングディスク	34	平成５年より活動
14	青山　美代子	フラワーアレンジメント	8	平成15年より活動
15	逗子高校	園内喫茶・しらとり祭	29	
16	ＳＲＦ	園内整備・クリスマス会	130	昭和38年より活動
17	ＮＴＴ	しらとり祭・ふれあいコンサート	85	平成３年より活動
18	横須賀学院	環境整備・吹奏楽	55	
19	その他	しらとり祭等行事ボラ・児童課のキャンプボラ等	10	
計			1,095	

7　オンブズパーソン施設訪問

	実施日	オンブズパーソン	内　　容
1	4月20日（金）10：35～12：30	木原	家族会参加 今年度活動についての打ち合わせ
2	6月12日（水）14：00～15：00	木原	日中活動　自立支援グループ はなそう会に参加　（通所と5・7寮利用者）
3	7月26日（水）13：00～16：00	木原	児童課　利用者の話し合いに参加（1・2寮）
4	8月25日（日）13：00～15：30	木原	北下浦ふるさと祭雨天中止の為 生活二課4・7寮の様子を見学（4・7寮）
5	9月28日（土）10：00～14：00	木原	しらとり祭に参加（3・8寮）
6	10月25日（金）10：30～12:00	木原	家族会参加にて活動報告
7	12月10日（火）13：00～15:00	木原	SRFクリスマス会参加（5，6寮）
8	2月21日（金）10：00～12:00	木原	家族会参加にて活動報告
9	3月7日（金）15：30～17:30	木原	実践報告会に参加

8 三浦しらとり園家族会

平成24年5月から家族会は隔月開催とし、開催日を第3・金曜日としました。
家族会開催時に当園から職員異動・行事等について情報提供を行ない、家族会と連携を図っています。

（1）家族会の会員等

内容 名称	会員数(名)	規約	会費(月額)	家族会長
三浦しらとり園家族会	130人	有	900円	鈴木堅之

（2）家族会の開催状況

（単位：人）

	家族会	開催日	出席数	備考（園行事等）
4月	定例会	4月20日	57	新年度スタート、清和祭バザー
5月	総　会	5月19日	67	レクレーション大会
6月	定例会	6月15日	48	
8月	定例会	8月17日	59	
10月	定例会	10月25日	47	9月しらとり祭
12月	定例会	12月20日	50	11月ふれあい広場等
H26年2月	定例会	2月21日	43	
計			371	

9 実習生/研修生受入れ状況 （平成25年4月1日～平成26年3月31日）

各大学、保育専門、歯科関係学校より受け入れを行っています。

（1）受入れ件数

	学校数	実人数	実日数	延べ日数
保育実習	20校	32人	239日	374日
研　修	13校	110人	17日	130日
計	33校	142人	256日	504日

（2）受入れ内訳

	学校名	実習/研修開始日	実習/研修終了日	実人数	実習・研修実日数	延べ日数
実習1	横浜こども専門学校	6月10日	6月22日	2人	12日	24日
実習2	草苑保育専門学園	6月20日	7月2日	1人	12日	12日
実習3	鶴見大学短期大学	7月30日	8月10日	2人	11日	22日
実習4	東京都立大学	8月5日	8月17日	2人	12日	24日
実習5	田園調布学園大学（福祉士）	8月5日	9月6日	1人	24日	24日
実習6	鎌倉女子大学	8月12日	8月23日	2人	11日	22日
実習7	蒲田保育専門学校	8月19日	8月31日	1人	12日	12日
実習8	鎌倉女子大学	8月26日	9月6日	1人	11日	11日
実習9	東京都立大学	9月9日	9月21日	1人	12日	12日
実習10	洗足短期大学	9月30日	10月11日	2人	11日	22日
実習11	蒲田保育専門学校	10月7日	10月21日	2人	12日	24日
実習12	鶴川女子短期大学	10月15日	10月28日	1人	11日	11日
実習13	鎌倉女子大学	10月21日	11月1日	1人	11日	11日
実習14	聖セシリア女子短期大学	1月16日	1月28日	2人	11日	22日
実習15	草苑保育短期大学	2月6日	2月19日	1人	11日	11日
実習16	横浜保育福祉専門学校	2月13日	2月24日	2人	11日	22日
実習17	鶴見大学短期大学	2月24日	3月8日	2人	11日	22日
実習18	聖ヶ丘教育福祉専門学校	3月3日	3月14日	2人	11日	22日
実習19	関東学院大学	3月10日	3月22日	2人	11日	22日
実習20	横浜高等教育専門学校	3月17日	3月28日	2人	11日	22日
小　計				32人	239日	374日
研修1	神奈川歯科大	7月3日	ー	10人	1日	10日
研修2	神奈川歯科大	7月17日	ー	10人	1日	10日
研修3	神奈川歯科大	9月4日	ー	10人	1日	10日
研修4	神奈川歯科大	9月18日	ー	10人	1日	10日
研修5	神奈川歯科大	10月2日	ー	10人	1日	10日
研修6	神奈川歯科大	11月6日	ー	10人	1日	10日
研修7	湘南短期大	11月13日	11月15日	4人	3日	12日
研修8	湘南短期大	11月20日	11月22日	6人	3日	18日
研修9	神奈川歯科大	11月20日	ー	10人	1日	10日
研修10	神奈川歯科大	12月4日	ー	10人	1日	10日
研修11	神奈川歯科大	12月16日	ー	10人	1日	10日
研修12	神奈川歯科大	12月18日	ー	9人	1日	9日
研修13	神奈川歯科大	1月21日	ー	1人	1日	1日
小　計				110人	17日	130日
合　計				142人	256日	504日

10　研修実績
(1)外部研修実績

清和会採用職員（管理職・主任・中堅等）を対象に外部研修に派遣しました。

ア 上半期外部研修

（単位：人）

開催日	内　容	会　場	職員区分	派遣人数
5月11日～12日	第94回セカンドステップ研修会	国立オリンピック記念青少年総合センター	中堅	1
5月15日	厚木精華園高齢者支援セミナー「高齢化による身体機能の変化」	荻野運動公園会議室	中堅	1
5月23日	TEACCH研究会「自閉症の診断をめぐって～ＣＡＲＳⅡ・ＤＳＭⅤレポート～」	おださがプラザ	中堅等	5
6月9日	第７回精神心理領域理学療法セミナー	東京学院ビル	中堅	1
6月20日	TEACCHプログラム研究会「ＣＡＲＳ：スコアリングの実際」	おださがプラザ	中堅	6
6月27日	強度行動障害事例研究会	県立中井やまゆり園	中堅	3
7月12日	指定障害福祉サービス事業者等指導講習会	横須賀市役所	管理職・中堅	6
7月11日	TEACCHプログラム研究会　「構造化：Structure TEACCH1ing」	おださがプラザ	中堅	6
7月24日	厚木精華園高齢者支援セミナー「高齢期にかかりやすい疾病・疾患について」	荻野運動公園会議室	中堅	1
7月26日	福祉施設ボランティアコ―ディネ―タ―研修	かながわ県民センター	主任	1
7月27日～28日	「行動問題」の見方と対応の実際	TFTビル	中堅	1
7月29日	やまゆり研修会「福祉施設等における権利擁護を考える」	県社会福祉会館	中堅	1
7月30日	和泉短期大学夏期リカレント講座　講演・ワークショップ	和泉短期大学	中堅	2
8月2日～3日	基礎から学ぶ発達障害	TFTビル	中堅	1
8月3日	自閉症トレーニングセミナー　公開講座（1日）	ウイリング横浜	中堅等	4
8月3日～7日	自閉症トレーニングセミナー	ウイリング横浜	中堅	1
8月21日	摂食実技研修会「食べる機能の発達について」(栄養士)	岩戸養護学校	中堅	2
8月21日	厚木精華園高齢者支援セミナー「摂食・嚥下機能を維持するためのよりよい食事支援方法」	荻野運動公園会議室	中堅等	2
8月22日	県障害者虐待防止・権利擁護関係職員等研修「障害者の権利は高齢社会の水先案内人」	横浜市健康福祉総合センター	管理職	1
9月5日	TEACCHプログラム研究会　「大人の実践報告」	おださがプラザ	中堅等	8
9月6日	弘済学園公開事例検討会	弘済学園	中堅	2
9月11日	部課長管理者向・人権研修「障害のある方の権利を守り、豊かな実践を創るために」	県社会福祉会館	管理職	3
9月13日・20日	強度行動障害基礎講座	県立中井やまゆり園	中堅等	5
9月19日	県中小企業家同友会主催「地域が支える福祉」	藤沢産業センター	中堅	1
9月25日～27日	サービス管理責任者等指導養成研修会		主任	1
9月29日	「明日からスタート！応用行動分析を用いたコミュニケーション支援」	発達協会	中堅等	5
計				71

イ 下半期外部研修

開催日	内　容	会　場	職員区分	派遣人数
10月3日	第２回強度行動障害事例研究会 (三浦しらとり園発表2人・参加者3人)	県立中井やまゆり園	中堅	5
10月7日 8～10日 22～24日 29～30日	神奈川県中央児童相談所研修（児童課職員5名） 児童相談所の概要・見学、援助方針会議、一時保護所実習、障害相談、育成相談等 10/7(5名)、10/8～10(2名)、10/22～24(2名)、10/29～30(1名)	県中央児童相談所	中堅等	10
10月13日 ～14日	2DAYS自閉症児・者支援者のためのトレーニングセミナー	ユニコムプラザ さがみはら	中堅	1
10月31日	民間協同会主任者研修「サービス等利用計画について考える」	県社会福祉会館	主任	2
11月12日～13日	強度行動障害現任研修会 「強度行動障害状態にある方の支援について」	県立中井やまゆり園	中堅等	2
11月13日	平成25年度神奈川県発達障害支援センター 「支援技術習得研修」 講師 東京芸術大学 高橋創一教授	高相合同庁舎	中堅	3
11月13日	平成25年度働く人のメンタルヘルス研修会	横須賀市生涯学習センター	管理職	1
11月15日	平成25年度早期療養普及研修「こどもの発達と栄養入門」	県立総合療養相談センター	栄養士	2
11月21日	「児童相談所における性加害児への支援について」 ～横浜児童相談所の取り組み～	せりがや病院	中堅	1
11月26日	民間協同会主任者研修 講演「ダウン症の娘と生きて」	岩間市民プラザ	主任	1
12月5日	第３回強度行動障害事例研究会　学習院大学 滝川教授 発表「強行事例の紹介」(ひばりが丘学園)	県立中井やまゆり園	中堅等	2
12月9日	危機介入研修「セラピューティック・ホールドの実際」 足利短期大学 平本准教授	県立中井やまゆり園	中堅等	6
12月11日	県総合リハビリテーションセンター研修 「知的障害の方の身体機能低下への対応」	県総合リハビリテーションセンター	中堅等	3
12月18日	民間協同会主任者研修　実践報告「かかわりについて考える」 ～ハブティックセラピーを通じて～	保土ヶ谷公会堂	主任	1
1月13日	強度行動障害者支援者養成研修　鳥取大学 井上教授	保土ヶ谷公会堂	中堅等	4
1月16日	県中央福祉会「人権報告会」	大和市健康福祉センター	中堅	1
1月28日～29日	強度行動障害現任研修会「強度行動障害状態にある方の支援について」	県立中井やまゆり園	中堅	2
2月14日	第25回こうさい療育セミナー「ＡＤＬ支援の理論と実際」	総合福祉センター弘済学園	中堅	1
計				48

(2) 内部研修実績

清和会採用職員を対象とした基礎的な研修を中心に実施しました。

ア 上半期内部研修

（単位：人）

日　程	内　　容	参加者
4月1日	清和会新規採用・転入職員研修	10
5月8日	職員研修（常務研修）	53
5月29日	公開基礎講座①「自閉症の障害特性と構造化について」（外部65人・園内22）	22
5月31日	公開基礎講座②「問題行動の捉え方、支援の方法について」（外部45人・園内19）	19
6月19日	EVAC CHIR(車椅子)研修	15
7月3日	救急処置医療実務研修	26
7月9日	オムツ実践講習会	12
7月18日		14
7月25日	ハイムリック法実務研修	56
8月1日		
8月22日		
8月29日	摂食嚥下医療実務研修	19
8月1日	児童課利用者実習報告会（報告者1寮2名・1寮4名）	17
9月2日	園日誌等情報共有研修Ⅲ（プロジェクトメンバー）	20
9月5日	園日誌の情報共有文書の作成研修（課寮等）	18
9月9日	園日誌等情報共有研修Ⅰ（日直担当者）	6
9月13日	園日誌等情報共有研修Ⅱ（日誌担当者）	25
計		332

イ 下半期内部研修

（単位：人）

日　程	内　　容	参加者
10月30日	心理公開講座「セカンドステップの全体理解について」 講師 NPO法人日本こどものための委員会渡辺理事（外部27人・園内33）	33
11月28日	感染症研修「インフルエンザ、ノロウィルスについての講師会」　湘南病院 佐野医師	20
12月6日	人権委員会「障害者虐待防止法施行から1年経ち…日頃の支援を振り返る」	21
12月13日	平成25年度強度行動障害対策事業ケース検討会　横浜国立大学 渡部教授	7
2月3日	第１回児童課研修　「愛着障害について」　心理担当職員	12
2月7日	第２回児童課研修　「愛着に問題があると思われる児童への愛着方法等についての検討」 心理担当職員	12
3月3日	強行公開講座 「利用者への不適切な対応を防ぐために～セラピューティックホールドの実際」 足利短期大学　平本准教授（外部24人・園内32）	32
3月12日	第31回 神奈川県障害福祉職員実践報告会 （7分科会にそれぞれ19人が参加し、第4分科会に施設として実践報告に3名出席）	22
3月17日～18日	清和会新規採用・転入職員研修（参加者17日34人・18日31人）	65
計		159

11　防災・避難訓練

実施月	訓練内容	目　的
4月30日	転入・新規採用職員対象防災講座・火災避難訓練 （周知）	防災マニュアルの周知 防災機器の操作 寮活動体制の避難
5月22日	夜間想定火災避難集合訓練（周知）	寮活動体制時の避難 ＊新任職員対象
6月19日 6月28日	火災避難総合訓練（周知） 非常用階段降下車椅子の実施 体験と説明	日中活動体制時の避難 ＊火災時応援体制確認 （5・6寮職員中心）
7月12日	夜間想定火災避難集合訓練（周知）	寮活動体制時の避難 ＊携帯電話による通報連絡
8月23日	日中活動中避難集合訓練（周知）	日中活動体制時の避難 ＊火災時応援体制確認
9月20日	地震避難総合訓練（周知）	寮活動体制時の避難
10月28日	消火器・放水訓練（周知）	防災機器の実施訓練
10月29日	火災避難集合訓練（周知）	寮活動体制時の避難
11月29日	夜間想定火災避難訓練・煙体験訓練（周知）	寮活動体制時の避難
12月3日	職員対象防災講座（周知）	防災機器の理解・操作
12月17日	火災避難総合訓練（周知）	寮活動体制時の避難
1月30日	夜間想定火災避難訓練（周知）	寮活動体制時の避難　＊児童課対象
2月26日	日中活動中避難集合訓練（周知）	日中活動体制時の避難
3月28日	地震避難総合訓練（周知）	寮活動体制時の避難

12　洗濯業務の状況

今年の６月・７月の洗濯業務は、緊急的に貴峯荘ワークピアに依頼いし、６月に委託業者の公募を行ない、その結果８月から貴峯荘ワークピアと正式に委託契約を結び、洗濯業務を委託しています。洗濯する衣類は、７種類に分けて洗濯袋にそれぞれ入れて洗濯を委託しています。

洗濯日は週３回（月・水・金）、時間は午前８：００、コンテナは、各寮８個(６４個)、コンテナを運ぶ台車
を８台しています。

平成２５年度の洗濯枚数

（単位：枚）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
洗濯枚数	22,653	22,822	25,899	34,706	30,474	30,665

（単位：枚）

	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	計
洗濯枚数	32,871	30,462	31,758	34,000	39,042	43,510	378,862

13　給食業務の状況

昨年度同様、児童から高齢の利用者の方まで楽しめる献立づくりを目標とし、行事食やバイキング、利用者個々人に合わせた対応をしてきました。児童と成人とでは目標栄養量や嗜好も異なるため、児童寮と成人寮とで別献立にする事も増えています。献立の内容としてはおやつでの対応や児童の主食・主菜の量を増やしています。また、今年度は給食の残菜の量が昨年度より少なくなり、よく召し上がっていただきました。

成人寮では、高齢化が進み誤嚥性肺炎の防止のために「とろみ剤」の使用が増えています。利用者の摂食・嚥下状態に合わせた形態の食事作りがより一層重要となってきています。

(1)栄養ケア・マネジメントの状況

栄養状態が心配される利用者の栄養ケア計画の見直しを行うことは重要ですが、状態が安定している利用者の変化を見逃さない事も重要です。現状としては、多くの利用者が食事形態だけでなく喫食時の支援（お茶ゼリーやとろみの開始、水分摂取、少量ずつの喫食、姿勢保持等）によって安全に食べる事が出来ています。今後利用者の高齢化と共に栄養状態・嚥下機能の低下もさらに進むと思われます。その為多職種の職員が利用者の給食を多面的にみていくことが今後も必要となります。

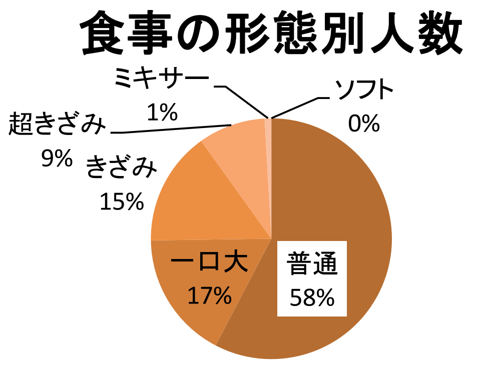
栄養ケア・マネジメントのモニタリングでは身体計測値や検査値では不十分であった場合は皮下脂肪厚測定を行い、筋肉量について判定・モニタリングを行っています。

（単位：人）

		４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
男	件数	54	53	53	53	52	51	51	51	50	50	50	50
女	件数	39	38	38	38	38	38	39	39	39	38	38	38
合計		93	91	91	91	90	89	90	90	89	88	88	88

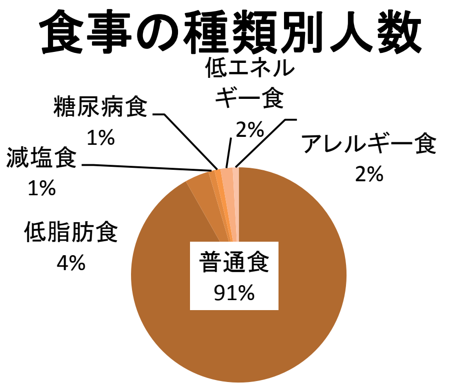
(2)食事の形態別人数

区分	普通	一口大	きざみ	超きざみ	ミキサー食	ソフト食	計
人数	64人	19人	17人	10人	1人	0人	111人
割合	58%	17%	15%	9%	1%	0%	100%



(3)食事の種類別人数

区分	普通食	低脂肪食	減塩食	糖尿病食	低ｴﾈﾙｷﾞｰ食	ｱﾚﾙｷﾞｰ食	その他	計
人数	101人	4人	1人	1人	2人	2人	0人	111人
割合	91%	4%	1%	1%	2%	2%	0%	100%



１４　医療の状況

(1) 利用者検診状況

（単位：人）

内 容	実 施 年 月 日	人 数
内科検診	H25 5/17、5/24、5/31、6/7、6/13、6/20、 H26 1/10、1/17、1/24	213
歯科検診	随時	129
胸部レントゲン	5月～10月1寮ずつ	82
眼科検診	10月23日	97
尿検診	5/8、5/15	95
耳鼻科検診	7/8、7/29	86
心電図	9月18日	75
インフルエンザ	11月5日	121
検便	随時	75
乳がん検診	8月27日	41

(2) 入退院の状況

（平成25年４月～平成26年3月）

	氏名	科別	病　　名	入院施設	入院月日	退院月日	転帰
1	ＩＫさん女性	神経科	検査入院（小脳変性症）	ことせも医療センター	4月10日	4月23日	退院
2	Ｓさん女性	内科	脳梗塞　誤嚥性肺炎	湘南病院	4月15日	4月27日	軽快
3	Ｙさん男性	内科	誤嚥性肺炎　ケイレン重積	湘南病院	5月17日	入院中	8/16退所
4	Ｋさん女性	神経科	てんかん発作	湘南病院	5月31日	6月1日	軽快
5	Ｙさん女性	内科	肺炎	湘南病院	6月7日	6月10日	軽快
6	Ｉさん男性	内科	気管支炎	湘南病院	7月12日	7月16日	軽快
7	Ｗさん男性	内科	不明熱	湘南病院	7月17日	7月23日	軽快
8	Ｙさん女性	内科	気管支炎	湘南病院	7月26日	7月29日	軽快
9	Ｙさん女性	内科	気管支肺炎	湘南病院	8月7日	8月13日	軽快
10	Ｈさん女性	内科	肺炎	湘南病院	8月7日	8月10日	軽快
11	Ｔさん女性	内科	肺炎	湘南病院	8月9日	9月26日	軽快
12	ＩＫさん女性	神経科	検査入院（小脳変性症）	こども医療センター	8月14日	8月19日	退院
13	ＳＹさん女性	内科	嚥下検査入院	湘南病院	8月28日	8月29日	退院
14	Ｙさん女性	内科	肺炎	湘南病院	9月2日	9月19日	軽快
15	ＫＹさん女性	内科	気管支肺炎	湘南病院	10月11日	10月21日	軽快
16	ＩＴさん男性	内科	貧血　輸血　精査目的	湘南病院	10月15日	10月28日	軽快
17	Ｗさん男性	内科	検査目的（腸流し）	湘南病院	10月15日	10月28日	軽快
18	Ｅさん男性	内科	肺炎	湘南病院	11月22日	12月2日	軽快
19	ＮＹさん女性	内科	肺塞栓症	湘南病院	11月26日	12月9日	死亡
20	Ｔさん女性	内科	肺炎	湘南病院	12月3日	12月17日	軽快
21	Ｍさん男性	内科	検査入院	湘南病院	12月11日	4月15日	退所
22	Ｏさん女性	内科	肺炎	湘南病院	12月13日	12月17日	軽快
23	ＫＹさん女性	内科	腹部膨満	湘南病院	1月24日	1月25日	軽快
24	Ｗさん男性	内科	肺炎	湘南病院	2月17日	2月25日	軽快
25	ＹＭさん女性	内科	嚥下検査	湘南病院	2月19日	2月20日	軽快
26	Ｙさん女性	内科	肺炎	湘南病院	3月5日	3月18日	軽快
27	ＳＲさん女性	内科	卵巣腫瘍	うわまち病院	3月31日		入院中

(3)診療所利用状況（単位：件）

平成　25 年度　　受診状況

総件数 5,635

科	内科			精神科			外科			整形科			小児科			皮膚科			耳鼻科			眼科		
病院	しらとり	本院	他院	しらとり	本院	他院	しらとり	本院	他院	しらとり	本院	他院	しらとり	本院	他院	しらとり	本院	他院	しらとり	本院	他院	しらとり	本院	他院
4 月	80	2	0	140	0	0	4	1	0	16	1	3	0	0	1	16	0	3	37	0	0	1	1	1
5 月	82	1	0	131	6	1	6	0	0	14	2	3	0	1	1	34	0	2	27	0	0	0	1	0
6 月	123	3	1	150	4	0	13	1	4	13	1	2	0	0	2	21	0	9	55	1	0	2	0	0
7 月	101	9	0	142	5	1	12	1	2	25	1	1	0	2	0	22	1	9	48	0	0	1	2	0
8 月	121	7	4	124	5	0	15	0	4	14	7	3	9	0	0	42	0	5	39	2	0	1	0	1
9 月	69	8	0	100	5	1	7	0	3	6	0	5	0	0	1	28	0	5	20	1	0	1	0	0
10 月	84	10	2	144	4	0	9	0	0	16	1	2	0	2	0	40	2	5	25	0	0	2	0	0
11 月	115	5	4	108	5	0	9	0	1	9	0	3	0	0	0	31	0	5	21	1	0	0	2	0
12 月	88	8	0	98	6	0	11	0	0	22	3	6	0	2	1	31	0	1	11	0	0	0	0	0
1 月	112	3	1	128	2	0	4	1	0	24	6	3	0	0	0	16	1	13	32	0	1	0	0	0
2 月	70	7	2	124	4	1	16	1	0	14	0	2	0	0	0	34	1	4	16	0	0	1	0	2
3 月	77	3	0	121	4	0	13	0	1	7	2	11	0	2	0	28	0	5	25	0	0	0	1	0
病院別計	1,122	66	14	1,510	50	4	119	5	15	180	24	44	0	9	6	343	5	66	356	5	1	9	7	4
科別合計	1,202			1,564			139			248			15			414			362			20		

科	泌尿器科		脳外科			婦人科			小計			月合計	歯科			総合計			月総合計
病院	本院	他院	しらとり	本院	他院	しらとり	本院	他院	しらとり	本院	他院		しらとり	本院	他院	しらとり	本院	他院	
4 月	1	0	0	0	0	3	0	0	297	6	8	311	127	0	2	424	6	10	440
5 月	2	0	1	0	0	2	0	0	298	13	7	318	90	0	2	388	13	9	410
6 月	3	0	0	0	0	3	0	0	380	13	18	411	141	0	1	521	13	19	553
7 月	3	0	0	0	0	0	0	0	351	24	13	388	156	0	5	507	24	18	549
8 月	5	1	1	0	0	0	0	0	358	26	18	402	160	0	0	518	26	18	562
9 月	4	0	1	0	0	1	0	0	233	18	15	266	143	0	0	376	18	15	409
10 月	4	0	0	1	0	0	0	0	320	24	9	353	141	0	0	461	24	9	494
11 月	3	0	0	0	0	1	0	0	294	16	13	323	146	0	0	440	16	13	469
12 月	6	0	0	0	0	1	0	0	262	25	8	295	115	0	2	377	25	10	412
1 月	3	1	0	0	0	1	0	0	317	16	19	352	128	0	0	445	16	19	480
2 月	2	0	0	0	0	5	0	0	280	15	11	306	116	0	0	396	15	11	422
3 月	4	0	0	0	0	2	0	1	273	16	18	307	127	0	1	400	16	19	435
病院別計	40	2	3	1	0	19	0	1	3,663	212	157		1,590	0	13	5,253	212	170	
科別合計	44		4			20			4,032				1,603			5,635			